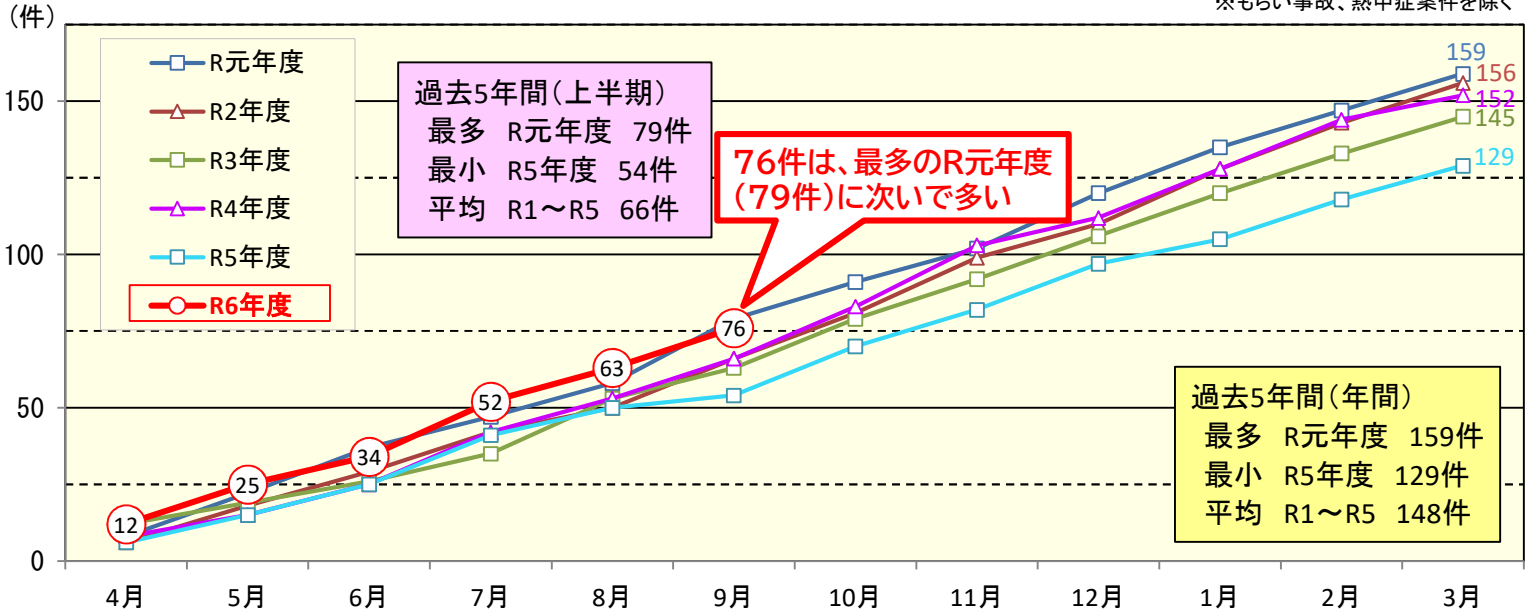


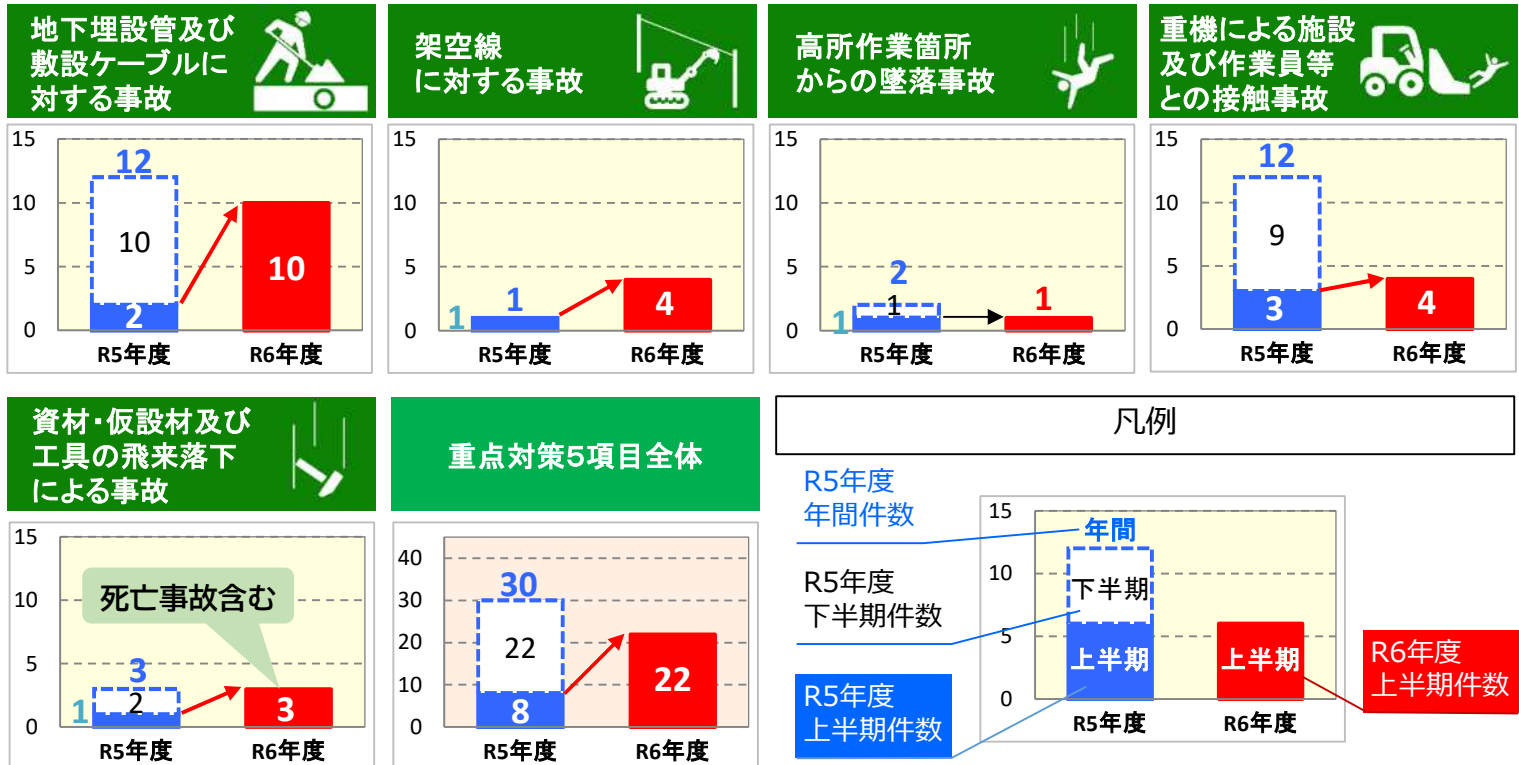
上半期の事故発生状況（速報値）

近年の年度別工事等事故発生件数（累計）（R6.9月末時点）

※もらい事故、熱中症案件を除く



工事等事故防止重点対策項目（5項目）の発生件数（速報値）



令和6年度上半期（4月～9月）は、過去5か年で**最多だった令和元年度に次ぐ多数の事故が発生**しています。また、重点対策項目事故も高所墜落事故以外の4項目で昨年度より増加しており、特に**地下埋設物事故は大幅に増加**しています。

このままのペースでは近年最多の事故発生件数になりかねません。小さなヒヤリハット事例も現場で共有し、**危険の芽を早めに摘んで事故を防止**しましょう。



工事等事故防止重点対策項目（5項目）に該当する事故が発生した場合、措置が重くなる可能性があります。

吊り荷が落下し、作業員が死亡する事故が発生

令和6年8月、大阪府内の照明灯設置工事において、照明柱を設置するため、クレーンでつり上げ作業中に照明柱が落下し、作業員が下敷きとなり死亡する事故が発生しました。

原因等は確認中ですが、クレーン作業において、**吊り荷の直下など危険のある場所への立入り禁止等の安全対策について、徹底ください。**



飛来落下事故の防止ポイント（吊り荷落下含む）

- クレーン作業における**吊り荷の直下**のほか、**吊り荷の移動範囲内で吊り荷の落下による危険のある場所への人の立入りを禁止**しましょう。
- **立入りを禁止した場所には看板等を設置し、作業員等に周知**しましょう。
- 上方の作業場所では、あらかじめ資材・工具の置場を確保し、仮置きしないようにしましょう。
- 資材が強風で飛ばされないよう、堅固に固定、または重しをしましょう。

対策事例



LED照明装置を取り付け、吊り荷下（立入り禁止区域）を見える化

安全対策を徹底し、埋設物事故を防止しましょう！

～ 具体的な安全対策を作業員に示し、作業を行いましょう～

地下埋設物の事故において、手掘りの範囲等の具体的な安全対策を示していないなど、『安全管理に関する指示が不十分』といった事が見られますので、下請けや作業員に対し、具体的な安全対策を指示するよう徹底ください。



事件事例 手掘りの範囲の指示が不十分で、埋設管切断

【事故概要】

新築工事において配管に伴う掘削をしていた際、既設給水管をバックホウで切断したものの。

【主な要因】

埋設管付近の手掘りに切り替える範囲（指示）が明確では無かった。



対策事例



埋設管明示板に埋設状況写真や土被りを掲載

- 試掘を行って正確な位置を把握し、**埋設物の周囲は人力で掘削**しましょう（深さ〇mは手掘りに切り替えるなど、**手掘りの範囲を明確にして作業員に指示**しましょう）

- 試掘によって埋設物を確認した後は、その位置に杭や看板等の目印を立てたり、路面上にペンキ等で印をつけて、**位置を明示**しましょう。